

カトリック香里教会 年間第四主日 2022年1月30日

— エレミア1章・4-5、17-19 1コリント12章・4-13、ルカ4章・21-30 —

そこでイエスは、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と話し始められた。皆はイエスを褒め、その口から出て来る恵みの言葉に驚いて言った。「この人はヨセフの子ではないか。」イエスは言われた。「きっと、あなたがたは、『医者よ、自分を治せ』ということわざを引いて、『カファルナウムでいろいろなことをしたと聞いたが、郷里のここでもしてくれ』と言うに違いない。」そして、言われた。「よく言うておく。預言者は、自分の故郷では歓迎されないものだ。確かに言うておく。エリヤの時代に三年六か月の間、雨が降らず、全地に大飢饉が起こったとき、イスラエルには多くのやもめがいたのに、エリヤはその中の誰のもとにも遣わされないで、シドン地方のサレプタにいるやもめのもとにだけ遣わされた。また、預言者エリシャの時には、イスラエルには規定の病を患っている人が多くいたが、シリア人ナアマンだけが清められた。」これを聞いた会堂内の人々は皆憤慨し、総立ちになって、イエスを町の外へ追い出し、町が建っている山の崖まで連れて行き、突き落とそうとした。しかし、イエスは人々の間を通り抜けて立ち去られた。-ルカ4章-

真の神の救い

預言者エリヤの時代。イスラエルに大飢饉が起こったとき、エリヤが異邦の国に遣わされ、イスラエルには遣わされなかったのは、イスラエルの不信仰ゆえでした。

当時、国を司っていたアハブは、彼以前の誰よりも、主の目に悪とされることを行い、又、どの王にもましてイスラエルの神、主の怒りを招くことを行っていた王でした。彼は、神々を拝する異国の王の娘を妻に迎え、進んでその国のバアル神に仕えてひれ伏し、イスラエルの神を必要としませんでした。

一方、イエスが登場したナザレの会堂での出来事は

今日、イエスが朗読し、民がこれを耳にしたとき、旧約の預言がたった今、実現したという、大いなる恵みに気づけず、只、自分たちの不便を満たす、ご利益主義の魔術師が登場したかのように、イエスを利用しない手はないと考えた民衆たちの不信仰を、イエスは、“預言者は、自分の故郷では、歓迎されないものだ”と語り、エリヤの時代の出来事を用いて戒められたのですが、これを受けて彼らはイエスを、自分たちには役に立たない不要物と見なしたのです。これは、豊作と繁栄を約束してくれるバアル神に走り、イスラエルの神を必要としなかったアハズ王と同じ、不信仰な民の現実でした。

今、世界中に猛威をふるって、私たちに執拗に付きまとっているかに見えるウイルス禍ですが、私たち信仰者はこの時をどのように捉えているのでしょうか？

いのち優先？ 経済優先？ with コロナ？ あるいは、生活に神を取り戻す？

いかに生きるべきか、今日の福音は、私たち信仰者に「真の神の救い」を問いかけています！

2022年1月30日 主任司祭 昌川信雄

